吹田市とモラトワ市
友好交流都市提携35周年

吹田市がスリランカのモラトワ市と友好交流都市提携を結び今年で35周年を迎える。その友好の歴史を取材した。

1982年調印式の写真。「文化・経済・社会的な結びつきを強め、互いの利益のため可能な限り努力する」との盟約書にサインした。（写真提供:吹田市）

吹田西ロータリークラブ会長の瀧川紀征さんと在大阪スリランカ名誉総領事D.W.アルッガマゲさん。

サンフランシスコ講和会議の有名なスピーチ

第二次世界大戦後の1951年、サンフランシスコ講和会議で連合国は日本に厳しい制裁措置を加えようとし、日本は分割占領の危機に立たされていた。その席上、当時のスリランカ代表であるジャヤワルダナ氏が、これに反対する演説を行った。このスピーチが連合国諸国の心を打ち、日本の国際復帰への道につながったと言われている。

友好交流都市のはじまり

1980年、江坂に関西初のスリランカ名誉総領事館が開設された。当時のスリランカ外務大臣の出身地がモラトワ市という縁から、翌年、同市の市長夫妻が吹田を来訪、1982年7月には吹田市と友好交流都市提携の調印式が執り行われ、当時の吹田市長と市議団がモラトワ市を訪問した。同年、吹田西ロータリークラブと初代名誉総領事との交流も始まり、1983年にはスリランカ民族舞踏団が吹田まつりに特別参加するなど交流が深まっていく。

モラトワ市は漁業と交易の中心地で、家具の製造をはじめゴム製品、バッテリー、変圧器などの産業が盛んな都市である。またモラトワ大学は南アジア有数の技術大学として有名だ。

1991年、「ロータリー村」住宅建設開村式のようす。（写真提供:吹田西ロータリークラブ）

吹田西ロータリークラブの国際奉仕事業

1985年、吹田西ロータリークラブは、スリランカ名誉総領事のご紹介でスリランカのコロンボセントラルクラブを訪問し、交流を開始する。1987年コロンボセントラルロータリークラブと姉妹クラブの締結を行い、記念事業としてスリランカ政府より提供された地に、土地整備をコロンボセントラルロータリークラブが担当し、住宅建設資材を吹田西ロータリークラブが提供して、1991年に82戸の村が完成した。この住宅地は感謝の意を表して、「ロータリー村」と名付けられた。その後も、救急車の寄贈や職業訓練センターの建設など行政と民間が交流を重ね、友好を深めている。

2013年2月吹田市とモラトワ市との友好交流都市締結30周年の際には、前吹田市長、議員、市民、ロータリークラブのメンバー合計17名で、モラトワ市を訪問。この時、多くの市民より歓迎パレードが行われた。

同名誉領事館は今年、すいたExpo2017、産業フェアやシティライフ主催のイベントにも参加し、香辛料や紅茶などスリランカの文化を伝えている。産業の拠点として国際的にも注目を浴びるスリランカとの交流は、今後もさらに発展するだろう。

30周年時にモラトワ市に訪問した際の、歓迎パレードのようす。（写真提供:在大阪スリランカ名誉総領事館）

箕面高校
2大会連続ダンス部日本一に

高校のダンス部日本一を決める「第10回日本高校ダンス部選手権」の全国大会が8月16日、17日に横浜市で行われ、2～12名編成のチームで競う「スモールクラス」で、府立箕面高校が昨年に続く2連覇を果たした。同校は5回目の優勝で、優勝回数は本大会最多。部員は115名、今回は2年生の男女混合選抜メンバー11人が出場した。ダンス部の顧問は「メンバー同士が仲の良いチームほど強い。挨拶や気配りもしっかりでき、周りの人とのつながりを大切にしてはじめていいダンスができる」と強さの秘訣を話す。来年も優勝を目指し、連覇記録の更新を狙う。

大阪文化芸術フェス2017
万博記念公園でも開催

10月の1カ月間、大阪府で文化芸術の祭典「大阪文化芸術フェス2017」（大阪府など主催）が行われる。伝統芸能や現代音楽、舞台芸術など、大阪の文化魅力を国内外に広く発信することが目的。イベントは万博記念公園をはじめ府内各所で開催される。万博記念公園では、F1やスーパーカーの展示、パレードのほかハロウィンパーティなどを行う。

「大阪文化芸術ミックスステージ」では、各局テレビ番組とのコラボイベントや大阪が誇る文化・芸術を紹介する特別ステージを設置。

「ナニワのハロウィンパーティ」では、アーティストやアイドルのステージ、仮装コンテストなどの参加型企画、吉本新喜劇の上演など多彩なプログラムを予定。

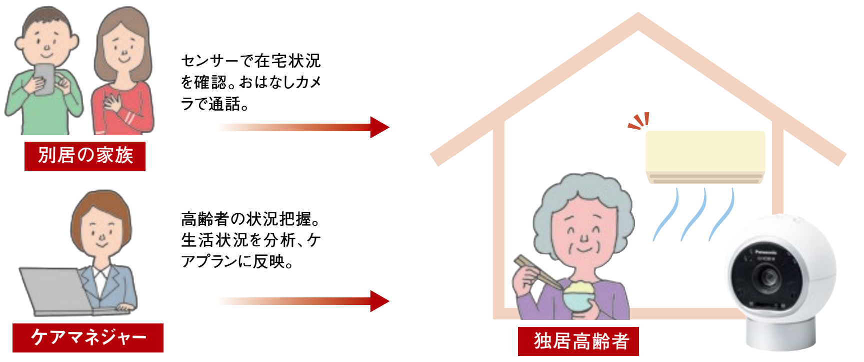
［ 万博記念公園で行われるプログラムの一例 ］

21日（土）・22日（日） 28日（土）・29日（日）	FOOD SONIC 2017 秋の万博記念公園特別編
22日（日）	万博記念公園Circuit 2017
29日（日）	ナニワハロウィンパーティ 2017

詳しくは、「大阪文化芸術フェス2017」で検索

遠隔地から高齢者を見守るシステム
箕面市 実証実験スタート

箕面市は、パナソニック株式会社と箕面市社会福祉協議会と連携し、「遠隔在宅ケアサポート・システム実証実験」を9月1日からスタートした。このシステムは、高齢者の在宅生活を支援する取り組みの一つで、高齢者が住み慣れた場所で長く暮らせる地域づくりの一環として、箕面市が実証実験の場を提供。実験では、エアコンやルームセンサー、通信機器などのIoT機器を使用して、別居の家族やケアマネジャーが独居高齢者の様子を見守る。別居の家族は、スマートフォンで高齢者の体調把握や緊急時の安否確認ができるほか、ケアマネジャーは、訪問やヒアリングだけではわからなかった高齢者の行動パターンを分析して、適切なサービスをケアプランに反映することが可能となる。箕面市社会福祉協議会が把握している独居の高齢者から、数名を協力者として選定。それぞれの協力者にあわせて、別居の家族やケアマネジャーなどを選定し、高齢者のモニタリングを依頼する。この実験は、貸与される設備の電気料金のみ協力者負担で実施される。



コミュニティサイト等における児童被害の現状

協力:大阪府警察

平成28年度のコミュニティサイト等が起因となった事犯の全国の被害児童数が、過去最多の1,736人となった。広く情報発信や同時に複数の友人等と交流する際に利用される「複数交流系」のサイトでの被害が大幅に増えたこともあり、児童買春及び児童ポルノの被害者が増加している。被害児童のアクセス手段は約9割がスマートフォンからで、そのうちの約9割が、ウェブなどを通じて悪影響を及ぼす有害な情報に触れたり、SNSなどでトラブルに巻き込まれることを防ぐ「フィルタリング」の設定を行っていなかった。

【 保護者の方へ 】

- インターネットの利用に関しては、ルールやモラルを守って子どもたちに利用させよう。
- 子どもたちに関わる大人たちが、子どもたちと共に考えていくことが大切。各家庭で親子で話し合いの場を設けよう。

【 相談窓口 】

大阪府警察本部 サイバー犯罪相談
http://www.police.pref.osaka.jp/05bouhan/high_tech/taisho01.html

大阪府警サイバー犯罪対策課では、インターネットの安全利用の啓発活動として様々なキャンペーンを実施している。10月6日のイベントでは、初音ミクを起用したオリジナル缶バッチを配布。詳しくは左記QRコードからアクセスを。